

女川原子力発電所を視察 宮城県と女川町を表敬訪問

KAKKIN は 5 月 14～15 日、東北電力(株)女川原子力発電所を視察し、宮城県と女川町を表敬訪問した。19 名が参加して、原子力発電所の現状と課題、立地自治体の原子力行政について話を聞いた。

1. 女川原子力発電所

	1号機	2号機	3号機
敷地面積	約 173 万平方メートル		
定格電気出力	52万4千キロワット	82万5千キロワット	82万5千キロワット
営業運転開始年月	1984年6月	1995年7月	2002年1月
原子炉型式	沸騰水型原子炉 (BWR)		
原子炉格納容器	マークI型	マークI改良型	
燃料	低濃縮二酸化ウラン		
燃料集合体	368体	560体	560体

※女川原子力発電所1号機は、2018年12月21日に運転終了

■発電所の概要

- ・女川原子力発電所は、三陸海岸の南端にある牡鹿半島の中ほど、宮城県牡鹿郡女川町と石巻市に立地している。敷地の広さは約 173 万平方メートルあり、東京ドーム約 37 個分に相当する。現在稼働している 2 号機は定格出力が 82 万 5 千 kW で、2024 年 11 月 15 日、14 年ぶりに再稼働（発電再開）した。BWR(沸騰水型軽水炉)という炉型を採用する原子力発電所の再稼働は新規規制基準施工後では初めてである。
- ・東日本大震災で被災した原子力発電所としても初めての再稼働となる。東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓を反映し、新たに生まれ変わるという決意を込めて「再出発」と位置付け、全力で取り組んでいる。
- ・東日本大震災の時、地元住民の皆さんが PR センターに助けを求めて来た。また、発電所の正門前にも避難した人が来た。本来は簡単には入れないが、人命にかかわることでもあり、構内への受け入れを決断した。最終的には構内にある体育館を避難所として開放し、6 月 6 日までの約 3 ヶ月間、最大で 364 名（3 月 14 日）が避難生活を送った。

■発電所内視察

- ・女川原子力発電所の安全対策について説明を受けた。まず、電気と水の確保は、ガスタービン発電施設・地下軽油タンク、淡水貯水槽（貯水量 1 万 m³ 25m プール約 20 杯分）、大容量送

水ポンプ車、熱交換器ユニット、電源車など。放射性物質を閉じ込めるための窒素ガス発生装置、様々な災害やリスクへの備えとして、緊急時対策建屋、防火帯などを視察した。

- ・次に3号機の建屋内部に入り説明を受けた。地震への備えとして、屋根・壁面の耐震工事、水圧制御ユニットのサポートの強化、主蒸気配管、給水配管のサポート強化、圧力制御室の耐震工事、放射線物質を閉じ込めるための、水素再結合装置、フィルター付格納容器ベント装置、電気と水の確保のための、高圧代替注水装置などを視察した。
- ・最後に防潮堤を視察した。これは津波対策として、基準津波高さを23.1mと想定し、全長800mの防潮堤を海拔29m（技術的に建設可能な最も高い防潮堤を作るという方針で建設）の高さとし、漂流物（車や小型船舶等）の衝突に備え、防潮堤の前面に漂流物防護工を設置している。



女川原子力発電所 佐藤克美 PRセンター所長から説明を受けた



女川原子力発電所 PRセンター視察の様子



女川原子力発電所にて

2. 宮城県と女川町

以下は県と町からの発言要旨

(1) 宮城県（小林徳光副知事）

- ・宮城県として再稼働を容認するにあたり、様々な場面でご意見を伺った。また、東北電力からは安全対策などについて詳しい説明もあり、住民の皆さんにご理解をいただいたとも考えている。
- ・立地地域の、自主的・持続的な発展を図るため、電源三法交付金制度の柔軟な運営や対応を、全国の立地県と協力して国に要請している。
- ・県民の原子力発電所に対する信頼度については、東日本大震災の時に避難所として使うことが出来た。また、安全対策の説明を丁寧に行ったことで、不安がないわけではないが、信頼されていると感じている。



宮城県庁表敬訪問
中央右：小林徳光 副知事



小林副知事と意見交換

(2) 女川町（伊丹相治副町長）

- ・伊丹副町長の挨拶で、広島原爆資料館の第9代館長の原田浩さんと交流があり、原田さんより「原子力発電を推進するためには、核兵器のない平和な世界にしていくことが重要である」と言われた。まさにKAKKINの活動と同じであると感じている。
- ・国に対しては、全国原子力発電所所在地協議会として、地域振興のための経済発展や、雇用対策などについて要望している。
- ・女川町としては、避難するための道路の整備と、バイパス道路を新規に作ることを要望している。また、東北電力には、電気料金を西日本並みに引き下げようとして、家庭や企業の負担を減らしてほしいと要望している。
- ・原子力発電所で購入するものに関しては、町内で事業協同組合を作り一括受注方式を採用して

いる。

- ・発電所は再稼働後も順調に運転を続けている。住民の安全を第一に、さらなる共存共栄のための努力を続けていく。



女川町表敬訪問
中央：伊丹相治 副町長



伊丹副町長と意見交換